

しびっぴーと vivid chic にど

ビビッとテンテナを張り巡らせている人は、いつもどこかに「イキイキ」と生きています。そんな方々の「ビビ」(粋)な活動を紹介するこのコーナー。さあ、あなたもビビッと、しつくと暮らしてみませんか？

今回のテーマかける
若いエネルギーが涼しい風になってかけぬける…
広島市の未来に向かって、
若者たちが「かける」情熱をお届けします。



「構え！」踊りにかける青春 広島市の青少年を応援 NPOコーチズ



スポーツのプロがサポート
NPOコーチズは、スポーツインストラクターの派遣・育成から高齢者の運動指導まで、スポーツを取り巻く環境の向上を目標に活動しています。平成6年(1994年)に、陸上やサッカーを指導する高校教員で結成した「広島スポーツマンクラブ」が前身です。現在の活動は、特定非営利活動法人となつた平成12年(2000年)の開設当初から続いているスポーツ健康教室と、昨年度から県の要請で始めた青少年ケア・サポート事業の二つを主な柱にしています。

スタッフは20人余り。健康教室などの指導に当たるプロのスポーツインストラクターと、ケア・サポートを受けている青少年たちで構成されています。



ケアサポートのひとつ「いさゝ健康教室」。昨年8月、西区己斐公民館にて



みんなで南中ソーランを踊りませんか？
出前指導もやっています！

二本柱の活動

「病気になるから治すのではなく、病気になる体をつくらう」という目的で行っている健康教室は、主に高齢者を対象としています。ほぼ毎日のように公民館や特別養護老人ホームを訪れ、元気あふれる活動を行っています。「毎日笑顔をもたえる仕事はなかなかない」というのがスタッフの自慢です。

青少年ケア・サポートには、県警からの紹介により、暴走族を辞めた青少年少女も参加しています。彼らは、コーチズのインストラクターに同行して、健康教室の補助をすることもあります。この活動は、高齢者と青少年の両方に刺激を与えているようです。「お兄ちゃん、うまいよ」「また来てね」というお年寄りの声が、彼らの心に響きます。それまではお年寄りには無関心だった子が、「転んだおばあちゃんを助けてあげたよ」と報告してくれたこともあるそうです。



コーチズ本部長の土居義美さん。
スポーツ教室に使うボールです

大迫力「構え！」のポーズ。とうかさ中央通りにて



6月24日、安佐北区三入公民館で
行った健康教室

広島に新しい文化を

青少年たちは、半年を一期として、現在二期生が活動しています。毎期ごとにそれぞれのアイデアで活動内容を提案して実行しています。レクリエーションやガーデニング、モータースポーツなど、発想に制限はありません。その中の一つに、二期生のアイデアで今年1月から取り組んでいる、南中ソーラン

ンというものがあります。
南中ソーランは、ロック調にアレンジしたソーラン節に合わせた踊り。昭和58年(1983年)、校内暴力に荒れていた北海道の北端、稚内南中学校で生まれました。教師や父母らの懸命な呼び掛けに応え、生徒たちが南中ソーランの踊りに挑戦。みんなで踊ることにより、協調性が芽生え、学校はもとより地域全体が再生していったのです。その後、昭和60年(1985年)に南中郷土芸能部「学び座」が生まれ、南中ならではのソーラン節を育んできました。平成10年(1998年)には「稚内発「学び座」という映画にもなり、全国の話題を集めました。そんな踊りの文化を広島にも広め、広島に新しい風を吹き込みたい」とスタッフのひとり、鈴川卓也さんは意気込みを語ります。

今年のとうかささんで

